

道家：

オレンジパラソルの道家です。よろしくお願ひします。

オレンジパラソルですけど、宮池さんと 2 人でお話をさせていただきたいと思ひます。

私たちは、オレンジパラソル、認知症について勉強して、認知症を理解しようと努めております。こちらにもあつて、見ていただいておりますが、学んだことをまとめて劇を披露する、オレンジ劇団を作りました。

そして、一般の住民の方たちに、認知症に対する啓発活動を行っております。

宮池：

オレンジパラソル。

最初は 2013 年でした。

認知症の理解を深めよう、そしてまた、認知症の予防の啓発をしようということで、団体を結成いたしました。

そしてまず何をしようかってことだったのですが、オレンジカフェを開催してみよう。

当事者の方や介護者の方たちと、一緒にゆっくりした時間を持っていただけたらいいなというふうに思ひましたけど、それがなかなかうまくいかなかったのです。

今の活動としては定例会を月 1 回行っていることと、それから、小中学校の認知症サポーター養成講座に、寸劇として啓発活動をしております。

その他はサロンや老人会の方にも活動が広がっております。

道家：

小学校の方は、4 年生。東浦町全部の小学校、まわらせていただいております。あと中学校一年生でも、今コロナ禍なので、中学校の方は入れてないのですが、小学校の方は、ついこの間までまわらせていただきました。

宮池：

小学校が 7 校、中学校が 3 校です。

道家：

このお話は、後でゆっくりと見ていただくということで、次、お願ひします。

宮池：

そもそも、歴史というかどういう経過でオレンジパラソルができたかと。

きっかけをお話します。

認知症のサポーター養成講座を受講した方が、またその次の年、フォローアップ講座が開催された時に集まり、その方々が、認知症についてもっと知りたいなと、うちの家族にも、親の介護をしているのだけど、その経験を生かしていきたいということで、オレンジパラソルを、立ち上げということになりました。

社会福祉協議会、包括さんたちがバックアップしてくださって、フォローアップ講座というものも開いてくださり、その中で、気持ちのある方たちが、そのバックアップの中で、立ち上がったという感じです。

道家：

オレンジパラソルというのはどういう意味ですか。

宮池：

オレンジというのは、認知症のカラーです。

そのオレンジの傘の下に、もっと勉強したい人だとか、それから介護でとても苦勞してらっしゃる方々、皆さんが集まってお互いに心慰めあったり、また認知症についてもっと勉強したいという方々、オレンジパラソルというこの傘の下に集まってくださいという意味で、オレンジパラソルというグループを作りました。認知症の方でも、認知症でない方でも、みんなでこのパラソルの下に集まろうよと、私も実は、この名前に惹かれて、入りました。

道家：

それは嬉しいです。

宮池：

月1回のペースで。皆さんのお話、苦勞の話だとか。新しい情報、これを皆さん方で両方集めました。そして時々は包括さんや社協さんに来ていただいて。

道家：

この写真は、宮池さんがオレンジのパラソルを持っています。

こういう感じでお話してくださったりしていました。

宮池：

最初に何をしたらよいかわからなかったものですから、認知症サポーター養成講座を開いたのですが、当事者の方に来ていただいて、介護者の方にも来ていただきたいと思いましたが、なかなか活動がうまくいかなかったりしました。まだ皆さんが、認知症についての理解が深くなかったっていうか。

認知症カフェとしてしまうと、敷居が高いというか、そういうのはすぐ返ってきました。

認知症の人しか来ちゃいけないみたいな。

そういう意味合いではなかったのですが、なかなか理解ができていなかったということです。

そんな時に、ふくしまつりで社会福祉協議会の職員さんが寸劇をしたのです。

認知症の劇です。

寸劇だったら、すぐに理解していただけるのではないかと、わかりやすく認知症について知っていただけるのではないかと思ひまして、オレンジパラソルの中の有志で作りました。図々しくも、社協さんがあのぐらいやれるなら、私はもっと

上手にできるみたいな感じで、オレンジパラソルのみんなに声かけたら、そうだよね。私たち劇だったらやれるよね。というような話になって。それで劇団結成となったわけです。

道家：

これは何の写真ですか。おばあちゃんになって。

宮池：

これはサロンです。より、身近なところで。皆さんがとても理解してくださって、すごくわかりやすいと好評でした。しばらく調子に乗っておりました。

劇をやってサロンで楽しく過ごしたのですけれども、ご意見がありまして、「認知症はそんなに甘いものじゃない。」との、おしかりの言葉や厳しい声もありました。介護をされている方も、フォローアップ講座を見に来られて、「いやそんな笑いを取るような話ではないでしょう」みたいに言われたときは、「えー」と、結構へこみました。

でも、より身近に話を聞いていただけるには、これが、ということで、心に決めて私たちは続けてきました。

いろんなところで、いろんなお芝居をやりました。サロンだとか、老人会だとか。この写真の「おたがいさま」というのが見えますか。「おたがいさま」というのが私たちの中では合言葉になっています。オレンジパラソルのメンバーも、もう高齢者の部類に入ってきているのですから。

みんな「おたがいさま」だよ。と。認知症であろうとなかろうと仲良くすごしていきましょう、ということで「おたがいさま」とさせていただきました。

これは、地域のみなさんが、いつごみを出したらいいのかわからなくて、おばあちゃんがウロウロしているとき、どうしたらいいかなあ。声をかけようかなあ、と、考えているところです。やっぱり、それは地域のいろんな人たちとつながるということなんです。

それと、上の写真は、認知症のおばあちゃんがうちに帰れなくなっちゃったとき、どういう声掛けをしたらよいか。

下の写真は、オレオレ詐欺にかかった時の写真です。

認知症とはまた別かもしれないけど、認知症の方の場合、どう対応したらということで、こういうお芝居をしております。

道家：

こんな感じで啓発をしております。

宮池：

平成29年から小学校中学校の福祉教育は、いろいろなことを選択していました。防災の勉強をしたり、車いすとか盲導犬とか。

その当時の教育長のご理解がありまして。

市内全小中学校に認知症サポーター養成講座をすることがとても大事ということをお話しして。私たちのサポーター養成講座を受け入れていただいたのです。それに伴いまして、私たちは、芝居も対応劇も、子供たちに披露することができました。

道家：

これはずっと継続事業として、毎年やらせていただいています。この2、3年、コロナで、まわりにくいところもあったのですが、どうにかまわれるところは、今年もぎりぎりまわらせていただきました。2月に入ってからは、またオミクロン騒動で小学校とかは中止になってしまう学校もありましたけれど、まわれるところはまわらせてもらいました。

宮池：

子供たちの反応がとてもよくて、いきいきしていて。本当に目を皿のようにしてみえていただいております。

道家：

写真をちょっと見ます。これが子供たちの前でやっているものです。これはマスクをしてないから、少し前のものです。

劇の様子です。良い例、悪い例です。

せっかくなので、動画がありますので、見ていただきたいのですが、ここで少しお話しさせていただきます。

宮池：

小学校の認知症サポーター養成講座では、社会福祉協議会の職員さん、今日だったら、岩田さんとかが講師を務めてくださいます。説明は、岩田さんなどがお話しをしてくださいます。

その中で、今回、ご紹介するビデオなのですが、お財布を取られたと思い込んでいる方にどのように声をかけたら良いのかという意味で、おばあちゃんとお嫁さんが出てくるのですが、その良い例と悪い例のお芝居をオレンジパラスが披露しております。

道家：

こちらでご紹介させていただくのは、先日、実際に小学校で行った10分ほどの劇の動画です。流しますので、ご覧ください。

なお、小学校で撮影しておりますので、環境音が入っております、少し聞き取りにくくなっております。ご了承ください。

また、はじめ大きい音が流れる可能性がありますので、ヘッドホンを使われている方は、音量に注意してください。

ではご準備の方はよろしいでしょうか。

\* \* \*

動画

\* \* \*

宮池：

ありがとうございました。

本当は、皆さんの前でご披露したかったのですが、こんな感じでやっておりません。

嬉しい手紙を、子供たちからいただきました。ここでご紹介させていただきます。

「オレンジパラソルの皆さんへ。

こないだは、認知症について教えてくださり、ありがとうございました。

認知症の人は、物は、覚えても覚えても忘れてしまうということがわかりました。

これからは、認知症以外の人も、助けを求めている人を助けたいと、オレンジパラソルの人たちの劇で、そう思いました。もっともっと楽しい劇を見せてください。」

道家：

では、続けて読ませていただきます。

「オレンジパラソルさんへ。

認知症について教えてくださり、ありがとうございました。

私ははじめ認知症のことを詳しく知りませんでした。

でも、オレンジパラソルさんたちの劇を見て、こうすればいいんだなあと思いました。

劇もわかりやすく面白かったし、悪い例、良い例をしてくださったので、とてもわかりやすかったです。

また、いろいろな人に認知症を詳しく教えてあげて、みんなで認知症の人を助けたいと思いました。」

何かありがたいです。励みになります。こういう手紙をいただきますと。

宮池：

体験を、おうちに帰って、家庭でお話をしているんですね。

それで、その家族の中で、「みんなで認知症のことについて話したよ。」という方もいらしたり、「この認知症のリングをランドセルにつけて登校しています。」というお話も伺っています。

先生も最初はクールでした。だけど、だんだん重ねていくうちに、先生が、自分たちの親が、こういう介護の現場にいたのだなということが、想像できるというか、そういうこともあって、今度は自分たちが、介護のことについて認知症のことについて考えなくちゃいけないというか、深い話を子供たちの前で、してくだ

さって、それを聞いて子供たちがもっともっと認知症のことについて、理解が深まったと聞いて本当にうれしかったです。

道家：

感じたことなのですからけれど、最初に宮池さんが言われたお子さんのところに書いてあったのですけれど、先生から言われたことなのですが、「中学校ではいじめやなんやいろいろな問題があります。学校の中で。その中で、お互いを思いやってやさしい気持ちになろうよねっていうことを、子供たちに伝えてくださるのがすごくありがたい」というお言葉もいただきました。

ここにも、こうやって書いてくれました。

「もっともっと人を助けて、助けを求めている人がいたら助けたい。」と、これは、認知症に限らずっていうことだと思うのです。

そういう、やさしい気持ちに、子供たちの方から逆に。私たちもそうだなってすごく思いました。

宮池：

では、次に。

オレンジパラソルの活動のことを少しお知らせしたいと思います。

私たちは、もちろんお芝居をやっているのですけれど、月に1回、定例会を開いております。

その中で、自分たちのスキルアップのための勉強会をやったり、また、よその地域で認知症カフェをやっているところがあるよという話を聞いたら、ちょっと行ってみようかと言って見に行ったりとか、あと家族が、私たちもそうだったのですけれど、認知症だったりとかいう人もやはり多くて、その上での体験談だとか、お悩み相談会ではないけれど、こういうことだったらこういうふうにするといいよねとお互い共有しながら、お話もさせてもらっています。

もちろん社協さんのやってくれるフォローアップ講座とか講演会などは積極的に参加させてもらっております。

道家：

私たちも、自ら楽しく参加させてもらって、楽しく学ぶということが一番にやっております。

無理はしないで、できる人がやる、そしていろいろな人とつながりながら、ゆったいりとのんびりとゆるやかな集まりでいたいと思っております。

宮池：

お互い様の心のところですよ。

道家：

私たちも高齢者ですし。

では、次お願いします。

宮池：

オレンジパラソル。お芝居をしていると私たちすごく楽しいですし、やっぱりこの楽しいということは、見てくださっている方にも伝わるし、また共感して一緒に活動してくれる仲間がいるということが、またすごく嬉しい。

そういうことが、子供さんたちからまた若い親さんにも伝わるということを、本当に実感として、活動から感じております。

道家：

いつでも子供たちが声をかけてくれる地域の顔として。

おばあちゃんってということもあるし、とても身近に感じてくれていると思います。

宮池：

地域の問題として。

地域の中で考えなくちゃ、一番大事だなとすごく思います。

道家：

今後やりたいこと。

宮池さんどうですか。

啓発も大事なのですが、最初に、オレンジカフェが、なかなか成功しなかったのです。

オレンジパラソルの中で、本当に困っている認知症の方々の支援をしたいと思います。

私たちも介護をした経験がありますので、そういう方々の支援もしたいし、また他の人たちと一緒にこう認知症の方々が集まれるような、ゆったりとした居場所を作っていきたいと考えています。

道家：

特に、ずっと活動してきた中で感じているのは、このように包括のみなさん、行政のみなさんたちのバックアップがあつての私たち、本当に連携というのですか、地域を見守っていくというのがすごく充実して東浦町は、やれてきているなっているのは、すごく感じています。

宮池：

ひとつのグループだけではできない。

道家：

そうです。そうです。

宮池：

みなさん応援してくださっています。

道家：

心強いです。

宮池：

その力が、私たち地域住民のパワーとなって。よいまちをやさしいまちづくり、認知症条例にあるような。そういう形でやっていけたらと思っております。

道家、宮池：

ご清聴ありがとうございました。

最後に東浦町の方からご案内だけさせていただきます。

先ほど、9月のアルツハイマー月間に合わせて、町内の大型のショッピングセンターでイベントを開催をさせていただくことになっておりましたが、コロナ禍で中止延期とさせていただいたとご案内いたしました。

2月に再度、調整させていただいております。

特に、2月15日のサポーター養成講座や、2月19日の出張認知症カフェでは、オレンジパラソルさんの劇を見ていただくことができますので、ぜひご参加いただければと思います。

また東浦町や東浦町社会福祉協議会のホームページでご案内をさせていただいておりますので、ぜひご参加ください。

それでは、ご清聴いただきましてありがとうございました。

これにて、東浦町の発表を終了させていただきます。